

NEWS LETTER

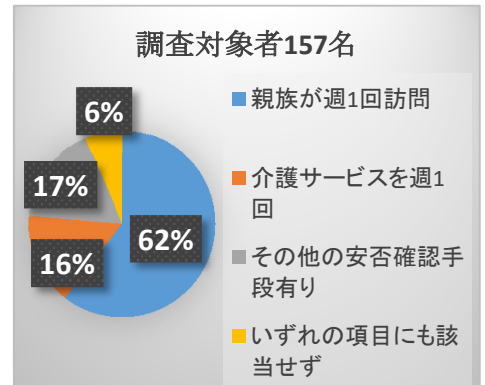
発行：基幹型包括支援センター
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～
会議運営支援モデルの取り組みを紹介します。

さらなる高齢者の見守り活動を目指して
～羽根学区福祉委員 在宅福祉員の活動報告～
by スクエアガーデン包括（羽根学区）

今回のキモ！

平常時安否確認の調査結果



- いざという時（災害時）だけではなく、平常時の見守り整備が大事。
- 約2年ごとの役員交代時の引継ぎが重要。
- 家族以外の地域の力、事業所の力で高齢者を見守っていく仕組みが必要。

- 【羽根学区福祉委員組織編成】
広報部・ふれあい活動部・安全安心活動部・在宅福祉推進部
- 【在宅福祉推進部の取り組み活動】
- ①ふれあい訪問（偶数月年6回）
 - ②在宅福祉部代議員会（年6回）
 - ③全体会（年3回、研修会、発表会）
 - ④サロン活動（随時開催）
- ふれあい訪問）慰問品を持参しながら、安否確認、困りごと、相談ごとを聞き取り、関係者に引き継ぐ。
 - 見守り活動）孤独死を防ぐ目的。総代を主に訪問。対象者のいる組長に市政だよりを渡しながらか、安否確認。新聞や洗濯物が干しっぱなしになっている等を見つけたときは連絡。
 - 平常時の安否確認の重要性から、対象者毎に地域支援者を選任、個別支援台帳を作成。平常時の安否確認方法を記載し、共有。
 - 平常時の安否確認調査では「親族が週1回以上訪問」「介護保険サービスを週1回以上利用」「その他の安否確認手段有り」「いずれの項目にも該当せず、地域支援者による安否確認が必要」の4項目に分け、優先度を決定。
 - 平常時から必要な対象者157名中10名を地域支援者（民生委員・総代・町推薦福祉委員・近隣居住者等）が見守りを実施。

明るく楽しくみんなで集える安心安全な学区

by 東部包括（本宿学区）

今回のキモ！

- 3つある会議体の目的、役割、メンバー、エリアを整理していく。
- 事業を展開する目的が重要。
- 様々な団体が、それぞれイイことをしている。同じ気持ち、目的なものもある。一緒にできること、横のつながりができる架け橋に。
- 小さいところからでも実施していくことで周りが変わっていくこともある。行動にうつすことが大事。

【地域特性】山間部に町が集約し、かつ名鉄・国道一号線で町が分断されている。坂道が多く、移動しにくい特徴がある。

【概況】2016年10月富田病院から地域貢献の相談があり、高齢者の活動の場の情報共有や連携として話し合いが開始。3回目より地域役員も加わり、集いの場のマップづくりやアンケート調査などを実施。会の名称も「本宿げんきを考える会」となり、歩いて行ける距離にごまんどく体操を展開。今年度はコロナ禍で病院の職員は参加できなかったが、学区福祉委員の各部長や景観まちなみ委員会長も出席。

【内容】「本宿げんきを考える会」で進めてきた「ごまんどく体操」が歩ける距離での展開が進んできたため、今後、どのような課題に取り組んでいくか地域の方と共に検討していきたい。10月の会議では実状に合わせた避難訓練の必要性や集いの場の不足、コロナによる閉じこもり、運動不足による筋力低下、若い世代の地域活動の話が出た。ミソ端会議では男性の料理教室を実施したいとの話があった。次回1月の会議で今後の方向性を話合う予定。

【課題】個別の取り組みは行っているため、今後は全体で話をする場の体制を整えたい。包括が各活動に顔を出し、情報収集、提案。女性の意見も聞けるようにしていきたい。

編集後記：今回は羽根学区福祉委員の在宅福祉部佐藤氏より学区の取り組みを発表いただきました。総代、民生委員、学区福祉委員等が共通理解のもと、自分たちの学区に必要なことを考え、実行していること、また、様々な分野で活躍している、されてきた方々が集まる力を感じ、これからの地域は明るいなと嬉しくなりました。私たち包括支援センターも一緒に取り組んでいけたらと思います。また、どちらの発表も共通して平常時の見守りの重要性の話がありました。平常時とは言えないコロナ禍で、以前のように出かけることが難しくなっていますが、日頃の買い物やゴミ捨てなどは続きます。日頃の生活の中で、隣の人は買い物に行っているかな？ゴミ捨て場で見かけないな、電気が点かないけど大丈夫かなと気にかけて、声をかけることが重要だと感じました。皆さんも是非、近所の方を気にかけてみてください。力を合わせていきましょう。